THE JAPANESE SOCIETY FOR QUALITY CONTROL
2019.3／MARCH
No.371
JSQCニューズ

CONTENTS
1-トピックス　JSQCフェロー制度について
2-私の提言　品質不祥事：品質データ改ざんへの提言
2-ルポルタージュ　第19回「安全・安心のための管理技術と社会環境」ワークショップ
3-第48年度 品質管理推進功労賞推薦のお願い／1月の入会者紹介
4-行事案内／論文募集／事務局からのお知らせ

発行 一般社団法人 日本品質管理学会
東京都杉並区高円寺南1-2-1　日本科学技術連盟東高円寺ビル内
電話.03 (5378) 1506　FAX.03 (5378) 1507
ホームページ：www.jsqc.org/

JSQCフェロー制度について

庶務委員会　新倉　健一

JSQCは、品質管理の見識に優れ、その実践により社会に貢献されている正会員（一般）に対して、「JSQCフェロー」として認定しております。

1．資格要件

原則として次のすべての条件を満たす正会員(一般)が対象となります。

⑴品質管理の見識に優れ、責任ある立場で指導的役割を果たし、学会の重要な活動に従事するなど社会に貢献している。

⑵正会員（一般）として15年以上在籍している。

⑶現役員、または、過去5年間に役員を経験したもの１名の推薦がある。

⑷学会規則104「会員規程」で定める会費を納入している。

2．申請方法

JSQCフェローの認定を自ら申請する場合は、JSQCウェブサイトに掲載の書式に必要事項をご記入の上、事務局に提出して頂きます。

JSQCフェローの認定を庶務委員会から申請する場合は、一覧表を作成し、資格要件を満たしていることを確認の上、本人の承諾を得ます。

3．認定および認定期間

庶務委員会で選考し、理事会で認定します。

JSQCフェローの有効期間は、定められた期間に会費を納入した翌年の1月1日～12月31日と定められており、年度単位で申請しますが、正会員、またはJSQCからの申し出がない限り、認定は継続します。

4．認定証明について

認定証明書は発行いたしません。JSQCからの認定通知メール、またはJSQCウェブサイトの「JSQCフェロー一覧」が認定の証明となります。なお、JSQCフェローとして認定された会員の氏名は、原則として本学会のウェブサイトに公開します。

5．名刺への記載について

JSQCフェローの肩書きを名刺に表示することができます。

名刺に記載する場合には、「日本品質管理学会認定　JSQCフェロー」と正式名称を記述するなど、誤解を与えないような表現に留意してください。

なお、JSQCフェローの英語表記は、“JSQC Fellow”と規定しております。

6．年会費について

JSQCフェローに認定された正会員（一般）の会費は、年額12,000円です。

上述の運用ルールは、他学会のフェロー制度を調査の上、品質技術者認定制度との比較検討、および会員区分上の位置づけ（表・1参照）を勘案して、制度設計を行い、運用に至りました。

表・1　会員の種類

区分	概要
名誉会員	品質管理について、特に顕著な功績のあった者
正会員	品質管理について、学識･経験を有する者、又は品質管理の教育に関与する者
一般	JSQCフェロー（認定）
シニア	正会員のうち、一定の会員歴と年齢に達し、申請のあった者
永世シニア	正会員（一般またはシニア）のうち、一定の会員歴と年齢に達し、申請のあった者
職域会員	団体の品質管理に関係ある職域に携わる者
準会員	品質管理に関係ある、大学の在学生又はこれに準ずる者
賛助会員	この法人の目的に賛同し、その事業を援助する者又は団体
公共会員	公共性のある学校、図書館又は研究機関

本制度は47年度にスタートし、2019年2月現在の認定者数は37名に至っております。JSQCフェローの普及により、会員の皆様の活躍の場がより一層広がり、品質管理の進展に寄与することを期待しております。

また、JSQCフェローの普及に向けて、会員の皆様の格段のご理解およびご協力をお願い申し上げ、制度紹介のまとめとさせて頂きます。

● 私 の 提 言 ●

品質不祥事：品質データ改ざんへの提言

㈱テクノファ　平林 良人

昨今の組織の品質不祥事については、いろいろな品質不祥事が報告されており、層別して議論しないと問題の本質を見失ってしまう。品質データ改ざん、無資格検査、不良品流出、コンプライアンス違反、企業統治不全などが報告されているが、本稿では品質データ改ざんについて、日本社会全体で現状の「もの作り力」の実態を把握することを提言したい。品質データ改ざんをしたとされる組織は、日本社会にその名をよく知られた半世紀以上歴史ある製造組織ばかりであり、社歴が10年、20年の組織の報告はない。ここに注目すべきであり一つの仮説が成り立つと思う。それは長い歴史をもつ製品に製造変質が起きているという仮説である。製造変質とは、４M変化の概念であるが、10年、20年と少しずつ変化を重ねいつの間にか大きな変化になったことを意味し、昨今のデータ改ざんの裏では、実は良品を製造できないという本質的な問題があるのではないかという仮説を唱えたい。

１．原材料の変化

製品の原材料に継続的に微小な変化が起きていないか。それも一つや二つの原材料にではなく多くのものに変化が起きていないか。この原材料の継続的変化に疑いを持つのは、ここ20年位に顕著であるサプライチェーンのグローバル化の展開により供給先が多様になっているからである。出荷検査、受入検査といった従来の検査の網では捉えきれない微小な変化が多くの原材料に起き、従来のレシピ、方法、手段では良品を製造できなくなっている可能性がないか。

２．人材の変化

製造業を支える人材がこれまた継続的に変化している。雇用形態が終身制から有期制へ、身分も正規から非正規へ、国籍も日本人から外国人へと長期にわたって少しずつ変化しつづけ、今に至って気が付けば従来の人の持つスキルを喪失してしまっていないか。

３．設備の劣化

工場にある目に見えない基礎、配管、配線などにメンテナンスを施すことは工場管理の常識であるが、これまた積年の微小な変化がいつの間にか大きな設備劣化につながってしまっていないか。

このように長い間の微小な変化の積算が製造基盤を大きく変えてしまったとすると、その変化に応じて製造方法を工夫しなければならないが、それがされてきていないことを案じる。

第19回安全・安心のための管理技術と社会環境ワークショップ

伊藤　誠（安全・安心社会技術連携特別委員会）

標記シンポジウムが2018年12月22日に筑波大学で開催された。このシンポジウムは、日本原子力学会社会･環境部会、ヒューマン･マシン･システム研究部会、日本品質管理学会、日本人間工学会　安全人間工学委員会、筑波大学大学院システム情報工学研究科リスク工学専攻の共同開催であり、今回で第19回を迎えた。

今回は、「情報･知識の共有による安全･安心の確保」を主テーマとし、幅広い分野から話題提供がなされ、それに基づいたパネルディスカッションが行われた。

話題提供の1件目は、中央大学 中條 武志氏による「品質賞受賞組織に見る､情報･知識の共有による安全･安心の確保」である。デミング賞、日本品質奨励賞などの品質賞受賞組織は、情報・知識の共有によって、新たな顧客価値の創造や安全・安心の確保に成功している。この講演では、いくつかの代表的な事例を取り上げ､ICT技術の戦略的活用の様子などが紹介された。

2件目は、構造計画研究所 妹尾 義之氏による「災害時の安否確認システムー成功のポイントと難しさ」である。災害でインターネット接続網が寸断されたときに、スマホをピアツーピア的につなぐことによって、安否情報を伝えることができる仕組みをつくった事例をご紹介いただいた。

3件目は、東北大学 高橋 信氏による「制御システムセキュリティの重要性ーCSSCの取り組みを中心にして」である。社会生活の根幹を支える重要インフラに対するサイバー攻撃によるリスクが重要になっている現状が紹介された。

続くパネルディスカッションは、筆者がコーディネータを務め、話題提供内容に対する質問をベースに議論を展開していく形で行われた。議論は多岐にわたったが、社会における安全・安心確保には情報・知識の共有が重要であるが、情報・知識の共有にもリスクが含まれることから、それらを総合的にとらえるものの見方、考察のフレームワークが必要であることをコーディネータとして実感した次第である。

ワークショップの内容は、報告書としてまとめられており、実費で入手可能である。

第48年度 品質管理推進功労賞：学会員の皆様 候補者の推薦をお願いいたします！

日本品質管理学会品質管理推進功労賞は、品質管理推進に尽力されている多くの方々に活力を与え、品質管理の発展がより加速され、ひいては産業界の発展に寄与できることを願って創設されました。本年度は第19回となり、次の要領で実施いたしますので、奮ってご推薦の程お願いします。但し、推薦にあたっては次の点にご配慮ください。

1）本賞選考の推薦は全てEメールにてお願いします。
2）推薦に際しては、予め被推薦者の了解を得て、被推薦者本人の確認を受けた書類を送付してください。

記

本賞の授賞資格（品質管理推進功労賞内規）：
以下のいずれかの条件を満たす会員とする。

1）企業・各種団体（以下、組織という。）に所属し、所属組織の品質管理の実践と推進に多大な貢献をした、もしくは、していると認められる者。
2）組織に所属し、本会に対する多大な貢献があった、もしくはある者。
3）組織に所属し、品質管理に対する造詣が深い者。
4）本会の役員2名以上の推薦があった者。

本年度選考方針：

a．本年度は、既に本来の所属企業を退職している人も対象として含めるものとし、表彰対象者数は、6名以内とする。
b．地域・社会への貢献を重視する。
c．本賞対象者の推薦に際しては、55～65歳位を目安とし、70歳以上ならびに50歳以下は避ける。
d．本来の所属企業で取締役になった人は避ける（理事、執行役員は対象とする）。但し、子会社等へ出向し役員になった方は候補者に含めて差し支えないものとする。
e．48年度のJSQC理事は、今年度の推薦対象者から外す。

評価項目：
本賞の候補者に対して、主に次の観点から評価を行う。

【A】所属組織への貢献
- a 1　TQC/TQM/標準化/QCサークル活動等の推進
- a 2　品質管理に関する表彰・認証等の受審支援
- a 3　品質保証体制の確立
- a 4　その他特筆すべき活動

【B】地域・社会への貢献
- b 1　日本品質管理学会の発展
- b 2　デミング賞委員会/品質月間/関連学会等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 3　標準化推進を通じた品質管理の普及・発展
- b 4　QCサークル活動の普及・発展
- b 5　日科技連/規格協会等の関係諸団体への協力を通じた品質管理の普及・発展
- b 6　品質管理に関する国際協力
- b 7　品質管理への深い造詣に基づく著作等の活動を通じた品質管理の普及・発展
- b 8　その他特筆すべき活動

推薦必要書類：

推薦書（様式219-1）、業績リスト（様式219-2）、上司等の推薦書（様式219-3、ここで上司等とは、元･上司、現・関連部門長を含むものとする。）

様式については、下記Webページよりダウンロードしてください。

URL：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou.html

業績リスト（様式219-2）の業績については、上記の評価項目に対応した記述にしてください。

推薦締切：2019年6月30日(日)
メール送付先：2019kourou@jsqc.org

選　考：日本品質管理学会 品質管理推進功労賞選考委員会が行う
発　表：**9月に開催される本学会理事会での承認後、本人ならびに推薦者に通知**
表　彰：2019年11月23日(土)
本学会 年次大会 授賞式
連絡先：日本品質管理学会事務局
参　考：http://www.jsqc.org/ja/kiroku_houkoku/jushou/kouroushou.html

2019年1月の入会者紹介

2019年1月22日の理事会において、下記の通り正会員11名、準会員2名、賛助職域会員2名、賛助会員2社2口の入会が承認されました。

（正会員11名）○石田　貴士（三菱重工マシナリーテクノロジー）○野口　甚一（住友金属鉱山）○横田　裕紀（旭精工）○木村　はるみ（筑波大学付属病院）○石橋　晃一（リガク）○大澤　政洋（日本アシスト）○岩砂　智丈（岩砂病院・岩砂マタニティ）○足立　秀昭（クラレ）○矢部　優子（豊田エンジニアリング）○市榮　武史（積水化学工業）○廣瀬　孝之（Valeo Japan）

（準会員2名）○谷垣　竣介（東京理科大学）○神田　博（横浜国立大学）

（賛助職域会員2名）○斉藤　大介（日本規格協会）○高橋　哲郎（前田建設工業）

（賛助会員2社2口）○アズビル○神戸製鋼所

名誉会員：23名
正　会　員：1813名
準　会　員：70名
職域会員：48名
賛助会員：142社184口
賛助職域会員：6名
公共会員：17口

行 事 案 内

●第8回 科学技術教育フォーラム

テーマ：科学技術立国を支える問題解決教育
－新学習指導要領の円滑な実施に向けて－
日　時：2019年3月23日㈯13：00～17：50
会　場：電気通信大学 100周年記念ホール
定　員：90名
参加費：1,000円（当日払い）
プログラム：
第１部　招待講演
「社会の大変革を乗り切るための次世代教育への期待」
浅羽 登志也氏（JSQC副会長）
「新学習指導要領“数学科”の円滑な実施に向けて」
長尾 篤志氏（文部科学省）
「新学習指導要領“情報科”の円滑な実施に向けて」
鹿野 利春氏（文部科学省）
「教育用標準データセット（SSDSE）を利活用した教材の提案」
山下 雅代氏（統計センター）
第２部　総合討論
司会：椿 広計氏
（JSQC元会長・統計センター）
詳細･申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h300324

●第120回QCサロン（関西）

テーマ：IT技術を用いた自動検査装置の開発事例
ゲスト：西野 真弥氏（岩崎電機製作所）
日　時：2019年4月11日㈭19：00～20：30
会　場：新藤田ビル11階研修室
参加費：1,000円（含軽食・当日払い）
申込先：関西支部事務局
詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310411

●第137回講演会（東日本）

テーマ：皆さま、何かISO 9001を誤解されていませんか？ISO運用の“大誤解”を斬る!
－マネジメントシステムを最強ツールとするための考え方改革－
日　時：2019年5月9日㈭13：25～17：35
会　場：日科技連　東高円寺ビル 地下1階講堂
定　員：100名
プログラム：
１．誤解を紐解く解説－その1
金子 雅明氏（東海大学）
２．誤解を紐解く解説－その2
平林 良人氏（テクノファ）
３．QMSの本質を極め、経営革新につなげる
飯塚 悦功氏（東京大学）
４．総合質疑
参加費：会　員4,320円（締切後 4,860円）
非会員8,640円（締切後 9,720円）
準会員2,160円･一般学生3,240円
※当日払いは別金額
申込締切：2019年4月26日㈮
詳細･申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310509

●第119回研究発表会（本部）発表募集

日　時：2019年5月25日㈯
会　場：日科技連 東高円寺ビル
⑴申込期限
発表申込締切：3月20日㈬
予稿原稿締切：4月23日㈫必着
参加申込締切：5月17日㈮
⑵研究発表・事例発表の申込方法
http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310525
⑶参加申込
本部事務局宛E-mailまたはFAXにてお申し込みください。

●第119回研究発表会（本部）

日　時：2019年5月25日㈯
会　場：日科技連 東高円寺ビル
プログラム：（予定）
10：00～11：00
チュートリアルセッションA
大沼 邦彦氏
（日立オートモティブシステムズ 取締役会議長）
11：00～12：00
チュートリアルセッションB
川上 幸一氏
（東京地下鉄 総合研修訓練センター所長）
13：00～17：55　研究発表会
18：10～19：45　懇　親　会
参加費：（懇親会以外の当日払いは別金額）
チュートリアルセッション・研究発表会
会　員 6,480円（締切後 7,020円）
非会員12,960円（締切後14,040円）
準会員 3,240円･一般学生4,320円
研究発表会のみ
会　員 4,320円（締切後 4,860円）
非会員 8,640円（締切後 9,720円）
準会員 2,160円･一般学生3,240円
懇親会
会　員・非 会 員4,500円
準会員・一般学生2,500円
申込締切：2019年5月17日㈮
詳細･申込：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310525_2

●第120回研究発表会（中部）発表募集

日　時：2019年8月28日㈬
会　場：名古屋工業大学
申込締切：
発表申込締切：5月31日㈮
予稿原稿締切：7月19日㈮必着
参加申込締切：8月21日㈬
申込先：中部支部事務局
詳　細：http://www.jsqc.org/q/news/events/index.html#h310828

「品質」誌、投稿論文の募集！

会員の方々からの積極的な投稿をお勧めします。投稿区分は、報文、技術ノート、調査研究論文、応用研究論文、投稿論説、研究速報論文、クオリティレポート、レター、QCサロンです。

論文誌編集委員会

事務局からのお知らせ

日本品質管理学会監修「JSQC選書29」好評発売中

●JSQC選書29（152ページ）
書名：企業の持続的発展を支える人材育成
－品質を核にする教育の実践－
著者：村川賢司

判 型 等：四六判、並製本
定　　価：1,600円（税別）→ 学会員特典価格：1,280円（税別）
申込方法：http://www.jsqc.org/ja/kanren/jsqc_sensyo.html

※書籍は請求書を同封して日本規格協会から発送いたします。

行 事 申 込 先

JSQCホームページ：www.jsqc.org/
本　部：TEL 03-5378-1506
FAX 03-5378-1507
E-mail:apply@jsqc.org
中部支部：TEL 052-221-8318
FAX 052-203-4806
E-mail:nagoya51@jsa.or.jp
関西支部：TEL 06-6341-4627
FAX 06-6341-4615
E-mail:kansai@jsqc.org